

キャラクター名 鷲崎火狩 (わしぎき・かがり)	プレイヤー名
----------------------------	--------

シンドローム	サラマンダー パロール	ワークス	エグゼクティブ	カヴァー	御書司
オプション		年齢	22	性別	男
覚醒	感染	衝動	殺戮	初期侵食率	32 %
出自	名家の生まれ	経験	大転落	邂逅	慕情

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	2	0	0			2	行動値	6
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	6
精神	3	0	0	1		4	戦闘移動	11
社会	2	1	0			3	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	8		射撃			RC	2		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	2	
運転：二輪	2		芸術：			知識：帝王学	1		情報：ウェブ	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
魔眼槍(100%)	白兵	2r+4 0	5	9		1点でもHPダメージで硬直付与

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
----	----	----	----	----	----

所持品		合計装甲：	0	合計回避：	0
カジュアル		ロイス			
携帯電話		対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス消費
アクセサリ		想い人	P	N	
思い出の一品		固定・シナリオ：白園杏璃 (大切な人)	P	庇護	N
		T 固定：鷲崎有火 (兄)	P	N	
		T 鷲崎燐一郎 (父)	P	N	
		T 鷲崎翼 (母)	P	N	
		T 使用人	P	N	
		T 鷲崎家	P	N	
		最大財産P:	10	残り財産P:	8

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
①コンセ：パロール	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：C値-Lv (下限値7)								
②瞬速の刃	1	3	メジャー	武器	-	対決	-	
効果：判定ダイス+[LV+1]個								
③暗黒の槍	3	3	メジャー	-	-	対決	-	
効果：装甲無視、5点のHP消費 シナリオLV回								
④終末の槍	3	5	メジャー	-	-	対決	リミット	
効果：《暗黒の槍》と組み合わせて使用。ダメージ+(LV)D、4点のHPを失う								
⑤プラズマカノン	3	4	メジャー	視界	単体	対決	100%	
効果：攻撃力+[L*V5]の射撃攻撃								
⑥因果歪曲	2	3	メジャー	-	範囲[選択]	-	-	
効果：対象を範囲[選択]に変更、同一エンゲージ攻撃不可 シナリオLV回								
氷の回廊	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：飛行状態で戦闘移動、移動距離+[LV*2]m								
魔眼槍	1	5	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：白兵武器作成								
紡ぎの魔眼	2	1	オート	至近	自身	自動	-	
効果：判定ダイス+LV個 ラウンド1回								
時の棺	1	10	オート	視界	単体	自動	100%	
効果：対象の判定を失敗させる、判定：自動成功には使用不可 シナリオ1回								
炎の理	1	-	メジャー	至近	効果参照	自動	-	
効果：炎を作り出す。ただしこの効果でダメージを与えることはできない。GMIは必要なら<RC>による判定を行わせてもよい								
効果：								
効果：								
効果：								

使用：基本1/2、上級、EA、HR、LM、BC
 一人称：俺／二人称：お前、貴様／三人称：お前たち、貴様ら

彼の人生は栄光と転落で彩られている。
 日本有数の企業グループである鷲崎財閥の人間であり、「後継者は実力者を選ぶ」という方針から、一族の後継者と目されていた。その期待に応えるために彼は文武ともに努力し、常に結果を出してきた。故に周囲から非難の言葉が出て嫌われようとも、妬まれようとも、「己の力と結果が全て」と自分の実力でねじ伏せてきた。だが、後継者の座には兄である鷲崎有火 (わしぎき・ありか) が収まることになった。彼とは反対に穏やかな性格で求心力のある彼が相応しいということとなったらしい。
 彼の努力は水泡に帰し、憐れみの視線が向けられた。プライドの高い彼にとっては、それは許しがたいことだった。後継者にならずとも財閥の関連企業の重役のポストは用意されたが、性格は以前よりも荒れ果て、厳しすぎる苛烈な姿勢はより周囲からの孤立を招くことになった。

彼の唯一の理解者は、婚約者である白園杏璃 (しらその・あんり) である。大人しく控えめな性格の、まさに深窓の令嬢というべき彼女だが、彼女に一目惚れしたのは意外にも火狩の方である。杏璃の家は比較的裕福な家庭ではあるものの、財閥の家柄と比べれば到底釣り合わない。しかし火狩はそれも気にせず、彼女に不器用ながらもアプローチを続けた。彼女もそんな火狩が可愛らしく思ったのか、何度も会ううちに身分の差を超えて心を許した。結果として婚約者として認められることになったのだが、裏では彼女の存在が火狩を後継者の座から落としたと噂する者もいる。時に人に嫌われる言動や行いをしたとしても、火狩が誰よりも努力し、鷲崎家の発展のために尽そうとし、